

# 紅梅會會報



第 96 号



## 会長あいさつ

49 回生 藤村 龍子

新しい年を迎え会員の皆様はどのような日々をお過ごしでしょうか。

昨年(2011年)の3月11日の東日本大震災から1年が過ぎて行きました。震災は、一瞬に多くのいのちを奪い生活の場を破壊して行きました。その後の復興は、人々の努力にもかかわらず遅々として進んでおりません。医療人として“今 何ができるのか”の問いは、しばらくの間、続くことでしょう。前回の会報にも述べたように、慶應義塾内においても、復興への叡智を集積し発信する社会貢献活動や危機対応緊急フォーラムなど、中・長期的復興を視野に置いた学際的・横断的活動が開催されています。2011年10月の慶應連合三田会大会は、“深めよう社中の絆、広げよう社中の輪”をテーマに支援活動報告会等がありました。紅梅会も会員相互の絆を深めるネットワーク作りの必要性を感じています。

◆東日本震災地の紅梅会会員の声を傾聴するための支援システムの必要性  
昨年、第68回紅梅会総会は大震災の事情から中止し、書面総会といたしました。会員皆様の安否状態は、ホームページ等の情報ネットワークを通じてある程度得ることができました。しかし、会費納入の方のみに会報が送られていたために、納入されていない会員の方の情報が把握できない状態でした。そこで、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の全会員209名に“近況連絡はがき”を送付。25名の方々から返信をいただきました。被災体験とともに原発不安や生活困難な状況を過ごした声が寄せられました。改めて紅梅会会員として絆の重要性を確認するとともに、被災された会員の情報収集や支援をするにあたり名簿が十分ではないことを感じました。現在の会員名簿は看護短期大学閉校時に作成し、以来10年を経過していますので、以前より新しい名簿作成の必要性を感じながらも個人情報保護の点から思案していました。しかし、今回の震災の経験から、役員会において災害発生時にそなえた会員相互の支援ネットワークづくりについて検討を開始しました。24年度総会では、皆様の建設的なご意見をいただきたいと思えます。

### ◆看護医療学部 10 周年記念シンポジウム：看護の本質を問いながら未来を志向すること

10周年を迎えた看護医療学部では、2011年11月23日10周年記念シンポジウムが開催されました。大田喜久子学部長の挨拶、清家篤塾長、阿川尚之理事の祝辞とともに開始。シンポジウムの内容は、現在・未来に向けた慶應看護学教育について4人のシンポジストから、看護の本質(真価)、看護実践の進化、地域社会で親化する看護、チーム医療の深化等、現代社会の医療ニーズに対応できる看護職者の育成に向けた提言が熱く語られました(座長：小池智子 81 回生)。大学化は他大学に比較して遅かったのですが、現代社会のヘルスニーズに呼応する先導者育成に向かって、着実に歩んでいることを確信しました。

### ◆今年こそ、紅梅会会員相互の絆を深める同窓会総会に出席しましょう

専門職としての看護の役割は、自律性の確立と役割拡大という提唱とともに、チーム医療の具現化、安全と安寧の医療を保証する方向へ動いています。こうした時代、紅梅会は新しい世代の会員支援と慶應看護の礎を育ててきた先輩諸氏の叡智を分かち合える場になる役割があります。みなさまが同窓会総会に参加されますことを心よりお待ちしております。

### ◆今年こそ、紅梅会会員相互の絆を深める同窓会総会に出席しましょう

専門職としての看護の役割は、自律性の確立と役割拡大という提唱とともに、チーム医療の具現化、安全と安寧の医療を保証する方向へ動いています。こうした時代、紅梅会は新しい世代の会員支援と慶應看護の礎を育ててきた先輩諸氏の叡智を分かち合える場になる役割があります。みなさまが同窓会総会に参加されますことを心よりお待ちしております。

## 春号の主な内容

- ◆平成24年度(第69回)紅梅会総会のご案内 …… 2ページ
- ◆慶應義塾大学病院のトピックス …… 3ページ
- ◆看護医療学部だより …… 4ページ
- ◆第34回 紅梅会研修会報告 …… 5ページ
- ◆ホームカミングディ報告 …… 5ページ
- ◆世代をつなぐ「Link age」活躍する同窓生 …… 6～7ページ

# 紅梅会総会のご案内

紅梅会同窓生の皆さま、2011年3月の東日本大震災で昨年度の総会は中止を余儀なくされ、急遽紙面総会とさせていただきますでしたが、多数の承認を得ることができました。ありがとうございます。地震や台風の爪跡から少しずつ回復の兆しも見え始め、今年度は予定通り第69回紅梅会総会を開催できますことを大変嬉しく思っております。

場所は、御茶ノ水「東京ガーデンパレスホテル」です。駅から近くて便利で、とても良いホテルです。

講演は、慶應義塾大学病院歯科口腔外科学中川種昭教授による「口腔のアンチエイジング」です。食べる楽しみは私たちの生きる喜びへと繋がります。生き生きとした生活を支える歯の健康についてお話いただきます。

多くの皆さまに楽しんでいただけますように、準備しております。どうぞ、お誘い合わせの上ご参加ください。沢山の皆様が来てくださることをお待ちしております。

(紅梅会準備委員長 84 回生 江河 都美)

**日 時** 平成24年 5 月 13 日 (日)

午前 10 時 30 分 開会 午後 2 時 閉会 (午前 10 時開場)

**場 所** 東京ガーデンパレス <会場>高千穂

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-7-5

(御茶ノ水駅より徒歩 5 分)

聖橋を渡って東京医科歯科大学の裏)

TEL 03-3813-6231・6237

<http://www.hotelgp-tokyo.com>

**会 費** 8,000 円

会場への道順は別紙を参照して下さい。

## 申し込みについて

\* 総会の出欠は同封の葉書で、**4 月 20 日 (金)** までに返信し、同封の振込用紙で 4 月 24 日 (火) までに入金をしてください。

\* なお、付添の方が参加される場合の席をご用意させていただきます。また、実費 (6,000 円) で付添の方の食事のご用意も承りますので、同封の葉書の通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

\* 駐車場割引・宿泊割引があります。直接、東京ガーデンパレスへお問い合わせ下さい。

## プログラム

- |  |                             |
|--|-----------------------------|
| 1. 開会の言葉 黙祷                                | 7. 講演                       |
| 2. 会長挨拶                                    | テーマ<br>「口腔のアンチエイジング」        |
| 3. 報告事項<br>看護医療学部現状報告<br>大学院現状報告<br>役委員会報告 | 慶應義塾大学病院<br>歯科口腔外科学<br>中川種昭 |
| 4. 審議事項                                    | 8. 会員代表挨拶・乾杯<br>会食          |
| 5. 質疑応答                                    | 9. 閉会の言葉                    |
| 6. 新旧役員挨拶                                  |                             |



参加者には、慶應義塾大学看護医療学部 開設10周年記念誌を配布します

# 慶應義塾大学病院の トピックス

## 1. 2011年10月新執行部スタート

2011年10月、武田純三病院長が再任され2期目を務めることになりました。今回は副病院長を5名とし、4名の診療科教授と看護部長が務めることになりました。武田病院長の今期の方針に、病院執行部の意向が院内の委員会等に反映されるように執行部のガバナンスの充実を図り病院機能を高めていくこと、チーム医療を担っていく上で重要な役割を果たす看護部の参画が、今後の慶應義塾大学病院の患者ケアの視点からも重要であることなどをあげ、職員部門である看護部からの副病院長を推薦されました。チーム医療推進にあたり、看護師の人材育成や多職種の連携による柔軟性のある組織運営を行い、慶應義塾大学病院にあったチーム医療の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。

病院長：武田 純三（麻酔科教授）  
副病院長：岡本真一郎（血液内科学教授） チーム医療担当  
天谷 雅行（皮膚科学教授） 総合医療情報・物流担当  
高橋 孝雄（小児科学教授） 危機管理担当  
北川 雄光（外科学教授） がん医療・救急医療担当  
鎮目美代子（看護部長） チーム医療担当

## 2. 総合医療情報システム導入（2012年1月1日）

総合医療情報システムは予算総額およそ20億円という大事業で、2011年1月の理事会、評議員会において導入が正式に決定しました。その後1年間という短い期間で、総合医療情報システム導入委員会、推進事務局、病院システム部を中心に各部門職員、医師からなる28のワーキンググループを立ち上げ、システム設計、システム構築を行いました。ワーキンググループでは運用フローの設計を行い、現行の業務を見直し患者動線を重視、そして全体最適化を目指し、新しい業務運用フローを構築していきました。そして、2012年1月1日14時に病棟、救急外来において、1月5日からは外来への本格稼働となりました。

導入した情報システムは、国内電子カルテシェアNo.1の経験と実勢を持つ富士通(株)のパッケージシステム「HOPE/EMAIN-GX」です。今までのオーダーリングシステムから、クライアント/サーバ型のフルオーダーリングシステム、電子カルテシステムへと変わりました。電子カルテ化により、複数の場所から診療情報を共有することができ、多職種間で同じ情報を共有することが容易になりチーム医療の推進につながることを期待しています。また、オーダーから会計に至る一連の処理を情報処理システムで支援可能となることから病院経営へのデータ利用や教育・研究への二次的利用、診療系ネットワークによる地域医療連携の強化なども、今後取り組んでいくところです。

また、総合医療情報システムの導入に伴い、外来の予約システムは完全予約制となりました。大学病院で診療が必要な患者を診療することを目指し取り組んでいき、2010年より皮膚科、2011年7月内科、精神・神経科、歯科・口腔外科、9月整形外科など順次進め、2012年1月には全診療科が完全予約制となりました。初診は電話予約が必要となりました。詳しいことは病院ホームページをご覧ください。

これらの電子カルテ化により、コミュニケーションツールや報告ツールなどが紙から電子媒体へと変化しています。これにより、患者と対面する時間や場の変化がでてきます。情報の確認や個人情報保護の課題など、専門職業人としてのモラルが問われてきます。情報社会の今日、これらのことも常に課題として取り組んでいく必要があると思っています。

<導入の経過> 2011年1月： 理事会、評議員会において導入が正式決定。  
総合医療情報システム導入委員会、推進事務局の立ち上げ。  
病院システム部を中心に各部門職員、医師からなる28のワーキンググループを設置し、業務フローの再構築、システム構築  
2011年2月～5月： 運用フロー設計、マスタ構築、データ二次利用設計  
2011年5月～8月： システム構築、マスタ作成  
2011年9月： 職員、医師の操作訓練開始  
2011年11月12日： リハーサル3回実施  
リハーサルは200事例を想定し、模擬患者には病院職員や塾職員、学生、関連業者にも協力を得た大規模のものとなった。  
リハーサルにおいて、マスターの問題点や部門システムとの連携、操作などの問題がみえ、12月の最後2週間は稼働にむけ全ての職員、医師に拍車がかかった。  
ナースステーションの改修、端末2500台設置  
2012年1月1日： 病棟部門、救急外来稼働  
2012年1月5日： 外来部門本格稼働



## 3. 7N病棟 HCU6 床開設

今まで7NCRU病床を7N病棟HCU（ハイケアユニット）として、2012年2月に6床開設しました。7N病棟HCUは、循環器系急性期患者を対象とし、中央診療部門のHCUとは管理を分けて行っています。これにより、病院におけるHCU（ハイケアユニット）は16床となりました。

## 4. 文部科学省補助金事業「看護職キャリアシステム構築プラン・ジェネラリストナースの発達モデル」

23年度は3年目を迎え、集合教育とOJTが効果的に作用するよう、指導者の研修にも力を入れてきました。加えて、キャリア・アドバイスやポートフォリオのワークショップなどを行い、看護師のキャリア支援の体制を整えつつあります。また、ホームページは、研修の申し込みシステムを導入、人事交流ワーキンググループでは2011年11月に「けいおうどーなつ」を立ち上げ、看護医療学部と看護部が協力して行っている臨床現場の教育活動や臨床活動の紹介を行う場を作りました。皆さまぜひ一度ご覧ください。

<http://kango-career.hosp.keio.ac.jp/>

(78回生 鎮目 美代子)

# 看護医療学部だより

2001年に開設した慶應にとっての9つ目の学部である看護医療学部は、10周年を迎えました。当初は、5月に湘南藤沢キャンパス（SFC）で記念式典を開催する予定で準備が進められていましたが、東日本大震災を受けて中止となりました。そこで、11月、東京ミッドタウンにおけるSFCオープンリサーチフォーラムという催しの場がございましたので、改めて「看護医療学部開設10周年記念シンポジウム」という形で開催されることになりました。

清家篤塾長や阿川尚之常任理事からご祝辞を賜り、「看護医療のシンカー—原点から未来へ」というテーマで4名のシンポジストをお迎えし、さまざまなシンカ：「真価」「進化」「親化」「深化」について討論されました。

「真価」については、甲南女子大学看護リハビリテーション学部の池川清子教授より、看護の本質としての真価とは何かについて、お話をいただきました。古代ギリシャの哲学思想から始まり、ナイチンゲールが提唱するところの看護、さらには現在の看護の考え方にまで内容が及び、看護という言葉が壮大に広がっていきました。「進化」については、我が学部の小松浩子教授より、上級看護実践看護師の話題から看護実践の「進化」についてお話がありました。メディアでも話題になっている新しい制度につき、普段うかがえないような内容のお話をわかりやすく解説してくださいました。そして、「親化」については、総合政策学部の秋山美紀准教授より、地域社会で「親化」しつつある看護の現状について、最後に、「深化」については、今年から始まった医療系三学部（医学部・看護医療学部・薬学部）の合同教育（KID：Keio Interprofessional Development）が目標とするチーム医療の深化について、我が学部の武田祐子教授より報告がありました。

当日は、学生や卒業生はもちろんのこと、藤村龍子紅梅会会長はじめ、山下香枝子前看護医療学部長や服部禮次郎慶應連合三田会会長がご参加下さいました。特に、皆様のおなつかしいお姿が揃い、11月という季節も重なり、昔の載帽式の荘厳な雰囲気を感じさせるような、大変有意義なシンポジウムでございました。

1月を迎えた今、信濃町キャンパスでは4年生が国家試験に備え勉強をしております。2010年から100%合格が続いているので、学生には多少なりとも緊張感があるようです。その緊張感を原動力に、ぜひ今年も全員合格を果たしてほしいと思います。3年生は、クリスマスのサンタ企画においては下級生を動員し活躍してくれました。1年生と2年生は、春学期は震災の影響で土日も講義があり青息吐息の様子でしたが、秋学期は落ち着いて勉学に勤しめたようです。

学校は現在、入試を終え次年度の準備を進めています。特に、2012年度より、カリキュラムが新しくなりますのでその調整を行っています。

新カリキュラムは、日進月歩する看護・医療の変化を鑑みて、その変化に対応できる人材を育成すべく、検討に検討を重ねて刷新されたものです。先述の医療系三学部合同教育（KID）も、その一つです。三学部の学生は、初期・中期・後期と3回、他学部の学生と机を並べて、講義を受け、グループワークでディスカッションを行うこととなります。

2011年より試行されはじめ、筆者が担当した後期教育では、「慢性腎不全患者のケア」に関する事例ワークショップを行いました。事例は、予習できるように前もって学生の手に渡るのですが、圧巻だったのがほぼ全員が何かしらの予習をして臨んでおり、専門職としての立場で意見を持って参加していたということです。この教育は、いつか臨床の現場で変化をもたらすのではないかと期待しております。

一つお知らせすべきことは、新カリキュラムでは、取得できる資格も変わることです。これまで、入学者全員に看護師と保健師の国家試験受験資格が与えられており、助産師については4年次選択制でした。新カリキュラムでは、入学者全員には従来通り看護師の国家試験受験資格が与えられますが、保健師も助産師と同様に、4年次選択制となります。

尚、新カリキュラムについては、近々に看護医療学部のホームページで紹介されますのでご参照ください。

以上、10周年記念シンポジウムのお話を中心に、新カリキュラムについてご報告いたしました。2011年は、東日本大震災もあり皆様のご安全とご健康をお祈りすることしかできない年でございました。2012年は、安全に健やかにシンカした看護の楽しさをさらに探究できるよう、湘南と信濃町の地で学生とともに努力したいと存じます。



▲看護医療学部10周年記念シンポジウム



▲三学部グループワーク（後期）



▲三学部教育発表会（後期）

## 看護師さん募集

### 自由が丘南口クリニック

内科、腎臓・透析内科、皮膚科

医師 稲本 元 (48回卒)、稲本 伸子 (51回卒)

東急線自由が丘7分  
大井町線九品仏4分  
目黒線奥沢8分

世田谷区奥沢6-21-11  
TEL：03-5707-1031

## ジョンズホプキンス ナースマネージャーアカデミー in Japan

ジョンズホプキンス大学病院の関連施設が開発した管理職研修を日本で開催。  
授業は日本語中心で行われ、ジョンズホプキンス現地とつないだWebセミナーもあります。  
師長、主任、管理職を目指す皆様におすすめです。



FIRSTSTAR Healthcare 株式会社ファーストスター・ヘルスケア  
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-3-201 ☎03-5368-0353 Fax.03-5368-0354  
E-mail:info@firststarhc.com

詳しくはWebで(ナースマネージャーアカデミー) <http://www.firststarhc.com/>

# 第34回紅梅会研修会 報 告

2011年11月11日（金）に第34回紅梅会研修会を開催いたしました。本年度は、慶應義塾大学総合政策学部准教授秋山美紀先生を講師にお迎えし、「患者さんが医療者に望むこと」をテーマにご講演をいただきました。

まず、秋山先生が慶應義塾大学鶴岡キャンパス（山形県）で活動中の地域協働型がん情報提供に関する研究と実践のプロジェクト「からだ館」がん情報ステーションについてお話くださいました。「からだ館」はキャンパス内の市民図書館を拠点に、①がん疾患や治療法・手術後の生活等に関する情報提供、②患者や家族の意思決定のための情報支援、③相談や情報提供を行える人材を地域に育成、④同じ悩みを持つ人の出会いの場の提供・闘病体験の社会還元等の活動を行っています。がん患者の情報サポートに加えて、勉強会、見学会、料理教室に至るまで、地域と協力しながら双方向の交流を支援することで、住民の健康レベルとQOLの向上を目指しています。

次に、「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」についてです。鶴岡地区は、2010年度までの3年間、国のがん戦略研究の介入地域となっており、①緩和ケアの標準化、②市民啓発、③地域連携、④専門緩和ケアの充実の四本柱に沿ったワーキンググループがアクションプランを策定し、鶴岡地区に合った地域活動を展開してきました。特に、地域住民へ緩和ケアを啓発する際に、地元の言葉による“寸劇”が効果を発揮したこと等をご紹介いただきました。

そして、ご自身の患者体験から、医療者に望むこととして「医療者には、患者の生活者としての姿を想像してほしい。目の前の患者の最適を実現すると同時に、少しでも視野を広げて社会の全体最適も考えられるよう統合力を高めてほしい。」というメッセージを下さいました。私たち看護師は、日々の業務に追われがちで「患者の（真の）ニーズ」を見落としがちですが、秋山先生のお話を通して看護というものを純粹に捉えていた学生時代を思い出すよい機会となりました。

最後に、今回の研修会では1ヶ月前に講師の変更がございました。東京および近隣の会員の皆さまにはハガキでご連絡させていただきましたが、このような事態になりましたことお詫び申し上げます。また、急なお願いにも拘らず快く講師をお引き受けくださいました秋山先生に深謝いたしますと同時に、紅梅会内外からご参加くださいました67名の皆さまにも重ねてお礼申し上げます。

（学6回生 百瀬 香・短6回生・学3回生 水口 由美）



# ホームカミングディ 報 告

平成23年11月27日（日）、慶應義塾大学病院内グリーンズカフェにてHome Coming Dayを行いました。Home Coming Dayとは、卒業された先輩方・学部先輩・後輩・先生方との交流会を通して、看護医療学部の横だけではなく、縦のつながりを深めることを目的としています。学部生には将来の不安を解消したり、相談をする場として、先輩・先生方には同窓生が集まり、新たな交流の開拓が出来るきっかけになると良いと思い、開催しました。日曜日の17時から先生方7名、卒業生10名、学部生25名に参加していただきました。受付の時点で、お菓子の種類によって様々なメンバーになるようグループ分けをしました。企画では、記憶力自己紹介ゲームとして、自分より前に自己紹介を行った人の名前を全員分言ってから自分の自己紹介をし、グループ内でフルネームを覚えるきっかけをつくりました。次に、看護ゲームとして、お菓子の詰め合わせをかけた看護医療学部に関わる4択問題で盛り上がりました。その後は軽食をしながら、歓談の時間にしました。相談やお話で時間いっぱい和やかな雰囲気包まれ、無事に成功させることが出来ました。

今年は看護医療学部創設10周年という節目でもあり、看護医療学部に携わる皆様がより一丸となって学部を盛り上げることが大切なのではないかと思い、私たちも企画してまいりました。早い時期から茶園美香先生のご協力のもと紅梅会会報に案内を掲載させていただきました。当日は、藤村龍子紅梅会会長、事務局浅田頼子さん、そして1回生から7回生までの多くの卒業生にお越しいただきました。また、加藤眞三先生、森田夏実先生、上野いづみ先生にもご参加いただきました。学部生は特に、将来の進路を決めたり、学生生活において様々な悩みや不安を抱えています。看護医療学部の卒業生には多様な分野で活躍されている方が多いため、学部生の相談を受けたり、多くの選択肢を提示していただく事が出来ます。Home Coming Day終了後、学部生からは「とても楽しかった。」「勉強になった。」という感想をいただき、また、先輩方が名刺交換をしている場面も見受けられ、交流の良い機会になったと強く感じました。私たちも楽しく過ごすことが出来、充実した時間となりました。

この会を毎年の恒例行事にしていきたいと思っております。今後ともHome Coming Dayをよろしく願います。

（学8回生 山内 理可）



看護の対象は新生児から高齢者まで幅広く、人々の生活を支える看護職が活躍する場は本当に数多いということを実感する今日この頃です。そのような中、紅梅会員の方々も様々な現場で活躍されています。今回は、保健センターで赤ちゃん訪問のお仕事をされている方と実習指導者を経験された方をご紹介します。

## 子育ての経験を活かした赤ちゃん訪問

短9回生 井場 幸子



私は短大卒業後、他病院に就職し産科、腎臓内科、婦人科などを経験しました。結婚のため退職後、新居を船橋に移し病院に再就職。NICUに配属されましたが、その後すぐ妊娠し8か月で退職しました。

赤ちゃんとの生活を楽しみにしていましたが、24時間年中無休の母親業は、予想以上に辛く、心身共に疲弊していました。双方の実家も遠く、周りの友達はまだ仕事を頑張っていたので相談出来ませんでした。仕事を再開したい気持ちはありましたが、母が私にそうしてくれたように子供が幼稚園に入るまでは家にしようと決めました。しかし、そう決めたものの、社会から取り残されているような孤独な気持ちになり、私は暗闇の中にいるようでした。

その暗闇から抜け出すきっかけは、茶園先生からの臨床指導実習の指導者のお誘いでした。結局、自宅が遠いということでお断りしてしまったのですが、「こんな私でも、働けるのではないのか?」とそんな前向きな気持ちになりました。その後、短大9回生の同窓会もあり、みんなの頑張る姿に元気をもらいました。

そして、下の子が幼稚園に入園して2ヶ月後、平成23年6月、船橋市中央保健センターの非常勤職員として赤ちゃん訪問の仕事を始めました。この仕事なら、看護師としての経験と、2人の娘の子育ての経験が生かせるのではないかと考えたからです。

実際訪問してみると、楽しく子育てをしている方もいらっしゃいますが、あふれかえる情報に振り回され混乱してしまったり、うまくいかないと、ご自分を責めてしまう方も少なくありません。私が限られた訪問時間の中で出来ることは、正しい情報を提供し、お母さんの話を傾聴し、気持ちに寄り添うことだと考えています。この訪問でお母さんの気持ちが少しでも楽になればいいなと思い自転車を走らせています。

## 実習指導を通して感じたこと

短11回生 篠田 美保



この仕事をしていると、決まって返って来る言葉がある。「大変ね」だ。確かに、大変だと感じる事がない訳ではないが、続ける理由がある。

実習指導のお話を頂いた時、迷いがあった。実習は進路を考える上でも大きく影響する事であり、学生とどう関われば良いか想像できなかった事、臨床から離れ、時が経過していたからである。そのような中、必要な時に必要な学びが与えられると思い臨んだ。

始めは、実習目標に沿い、いかに学生が目標を達成できるかに焦点を当てたが、学生によりスタート時点も異なり一筋縄にはいかなかった。人を変える事は出来ない、良かれと思って押し付けでは学生のためにならないと知った。学生の力を活かすとは、引き出すとは何かを考えるようになった。話を聞くと、患者さんに良かったと思っていただけるような関わりをしたい、信頼関係について学びたい、看護師を続ける糧を探したいなど、学生にも様々な目標があった。そして、その学びたい方向から関わると、学生は自ら思考し、看護を見出していく。結果、実習の目標も学生なりに導き出した。また、同じ状態を維持できる事も変化であると、学生から教わる事もあり、看護とは何かを考える機会を与えてもらえる。

病気になる事と実習に臨む事は似ているように思う。病気は、苦しい事でもあるが、どう生きたいのかを問い直す機会でもあり、実習は、学生にとって、始めて問いを立てる場であり、問答しながら道を探していく。この問いを立てるという事は、人が生きていく中で重要な思考で、実習は、これから誰のために、どう在りたいのかを真剣に考える機会だ。その場に、学生と共にあり、共に考えていける事は貴重である。人の育成に大切な事は何かと私自身も問いをもらい、日々、探している。

この仕事を続ける理由は、好きだからだと思う。

※実習指導者とは大学が雇用する非常勤の実習指導者です。看護医療学部では毎年各実習で実習指導者を募集しています。

## 卒業 50 周年を迎えて

43 回生 村尾 イミ子

私たち 43 回生は、今年、卒業 50 周年を迎えました。50 年とは気の遠くなる程の歳月ですが、7 月 5 日、アルカディア市ヶ谷（私学会館）に集うと、すぐに慶應の学生時代の続きのように、ワイワイと盛り上がりました。入学当時から人数が少なく卒業時 24 人で、今回の出席者 15 人、欠席は 4 人で、住所不明 4 人、死亡 1 名です。

大阪から二人、新潟から、福島から、茨城、埼玉からと遠方からも馳せ参じて下さってとても賑やかな会になりました。在学中は全員退学処分になりそうだったこともある活発なクラスで、少人数のせい良かったとまわっていました。今は、看護を専攻しただけあって皆な健康に気を配って、趣味など、第二の人生をはつらつと生きていて輝いていました。

4 時間半の会は、あっという間に過ぎて、2 年後の再会を約束して終了になりました。

大竹先生、福岡先生は、お二人ともご都合がつかず残念でした。写真前列左から、田原幸子、細井幸子、高間昌子、本郷イミ子、播本照子、斎藤敏子、林部圭子、後列、菊地恵、横山昇子、佐藤芳子、鈴木美智子、佐藤喜恵子、川端照子、黒田知恵子、古渡恭子（以上旧姓で）



## 卒業 41 年目の集い

60 回生 花岡 眞佐子

私たち厚生女子学院 60 回生（68 名）は昭和 45 年 3 月に卒業し、早くも 40 年が過ぎました。数名の方とは紅梅会総会や仕事関係でお会いする機会がありますが、「皆さんお元気かしら…」という思いがあり、思い切って 11 月 27 日に同期会を開催しました。「案内」を送付できた方は 53 名で、31 名から「参加」の返事。「せいぜい集まって 20 名程度よねえ…」と小さな部屋を予約した幹事 3 名（菅原スミ、三上れつ、花岡）は慌てました。11 月は結婚式シーズンのため東京ガーデンパレス（御茶ノ水駅）の宴会場は満室。還暦を過ぎた同期生の体力を考え、椅子を持ち込んでの立食形式で何とか対応しましたが、「次回は温泉に泊まり、座ってゆっくりと話がしたい！」という声が聞こえています。

クラス担任の北山春代先生は欠席でしたが、大橋優美子先生は教え子たちと 40 年ぶりの交流をしてくださいました。食事も一段落したところで、一人 1～2 分の持ち時間で近況報告。…が、誰も 2 分間では終わらない。子育てを終えた方、孫の世話に明け暮れる方、介護まっただ中の方、両親の介護を終えた方、和服着付け教室で活躍する方、訪問看護で活躍する方、40 歳で保健師学校に入学した方、看護部で病院経営に携わる方、医師免許をとった方、歯科医師として診療に追われる方、看護専門学校で教えていた方、短期大学で教える方、看護系大学で教える方、大学院博士課程で学位論文に取り組む方、など。それぞれの人生を楽しんでいる様子が伝わってきました。集合写真は「A クラス、B クラスに分かれて」との希望で 2 枚撮ることに。あっという間の 2 時間が終わり、その後はホテルの喫茶室で二次会を楽しみ、解散。遠くは札幌、高知、長野、浜松、福島へと帰途につきました。帰宅中の大橋先生からは「元気な 60 回生に会えて感激です。みなさんが目的をもって生きていることは素晴らしい」とのメッセージ。一週間後に「思い出写真」を送り、たくさんの感謝メールやお便りをいただきました。



看護部長 中村 くに子（紅梅会 68 回生）  
副看護部長 堀谷 知子（紅梅会 83 回生）

## 目野市立病院 看護師募集

【当院の役割】 地域の中核を担う二次救急病院

【看護部の理念】 自己決定を支える看護実践と安全・安心できる看護提供

緑多い武蔵野の地で私たちと一緒に働きませんか？  
子育てしながら働ける環境が整っています。

交通アクセス

JR 中央線豊田駅北口徒歩 15 分

〒191-0062 東京都目野市多摩平 4 丁目 3 番地の 1  
TEL : 042 (581) 2677 FAX : 042 (587) 3408  
E-mail : hinohp-kangobu@m3.hinocatv.ne.jp

**お知らせ** 会報はゆうメールでお届けしています

住所・氏名等に変更があった場合は、必ず事務局までご一報下さい。お手数ですがよろしくお願ひいたします。  
事務局は原則として下記の日時に開けておりますが、諸事情により不在のこともございますので、あらかじめご了承下さい。なお、不在の場合は留守番電話に、回生、お名前、用件をお残しください。折り返しご連絡いたします。

浅田 頼子 (68 回生)

**事務局** 月・木曜日 11時～17時(8月は夏休み)  
**在室時間** 直通電話・FAX : 03-3341-8116

**平成 24 年度前期「特選塾員推薦」受付中**

平成 13 年 4 月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生の方も特選塾員となることできるようになり、今までに 234 名の方が会長推薦により特選塾員となりました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。

紅梅会会長推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は下記の内容を明記して、紅梅会事務局まで郵送またはファックスでお送り下さい。

今回申込みをされた方は、9 月末に推薦書を塾監局に送付しますので、11 月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局までお問い合わせください。

記

1. 氏名 (楷書で正確に) 2. ふりがな 3. 生年月日 4. 現住所 5. 電話番号 6. 勤務先 7. 回生または卒業年月

**計 報**

17回生、助15回生

日下部まき (旧姓菊本)	平成23年 9 月29日	39回生	浅井 和	平成23年 9 月15日
21回生 門脇 きよ (旧姓伊藤)	平成21年 8 月17日	43回生	野村 とし (旧姓金田)	平成23年11月30日
31回生 矢野 正子 (旧姓譲原)	平成23年10月10日	54回生	下山 寛子 (旧姓強瀬)	平成23年12月18日
34回生 鈴木 雅江 (旧姓村越)	平成23年11月11日	短5 回生	小嶋百合子	平成23年12月25日

95号の計報の訂正とお詫び (誤) 60回生 鳴原 操 (旧姓嶋田) → (正) 62回生

**編 集 後 記**

多くの被害が発生した東日本大震災発生から約1年たちました。震災を通して「絆」の重要性を改めて感じた1年でした。被災の状況や近況等を紅梅会あてに連絡くださった方々、本当にありがとうございました。今後とも、近況・同窓会報告、紅梅会へのご要望等お寄せいただければ幸いです。紅梅会会員の「絆」を深めるため、少しでも力になれるよう、紅梅会会報を作成していきたいと思ひます。

編集委員 山口伸子

**会員名簿に関する注意とお願ひ!!**

前号でもお知らせしましたが、高齢者を対象とした未公開株販売に係る組織的詐欺事件の捜査で、紅梅会同窓会名簿が発見されたとの連絡が千葉県千葉中央警察署からありました。

会員の皆様におかれましては、詐欺事件に遭われませんよう十分にご注意ください。また、名簿を処分されます時には、裁断処分としていただきますようお願い申し上げます。

**ご案内**

96 号紅梅会会報はいかがでしたでしょうか? 第 34 回紅梅会研修には多数の参加者があり有意義な時間を持つ事が出来ました。

ホームページ「慶應義塾看護同窓会紅梅会」は、定期的に応援し、活躍する同窓生の皆様のインタビューなどを載せています。紅梅会では、紅梅会会報にて皆様の活躍をお伝えするとともに、会員の方々の意見の吸い上げも課題のひとつとして捉えております。近況報告も含め紅梅会に関する会員の皆様のご意見ぜひお寄せください。

**広告掲載募集**

広告を募集しています。紅梅会会員の場合、名刺サイズ 1 枠 (5.5cm × 9.0cm) 5,000 円、2 枠 10,000 円です。読者 (会員) にとってより身近な医療・看護関連の広告をご提案できればと考えています。広告掲載のお申込・お問い合わせは、紅梅会事務局までお願い致します。この会報 (広告) は、紅梅会のホームページにも 1 年間掲載されます。

(この広告掲載の基準は 2012 年 3 月末日のものです)